

本学学生の言語意識と現状に関する調査報告

紙 宏 行
飯 野 守
実 川 恵 子

はじめに

〔調査のねらい〕最近、青年層の国語能力の著しい貧困化や大学生の学力低下は、大きな社会問題となっている。いうまでもなく、本学学生もその例にもれない。私たちは、このような現状を憂慮し、共同研究を企図した。主として本学学生を対象に、言語意識と言語感覚への自覚を促し、言語表現能力向上の方法を探らうというものである。

本研究の成果は、本学のみならず、広く短期大学における国語教育・言語教育の進展にも寄与するものと思う。

〔調査の方法〕本学学生に対し、言語意識と現状についてアンケート調査を行った。調査項目の概要は次のおりである。Q1～19は〔一般的な質問〕で、話すこと、書くこと、読むことなど言語の基本にかかわる事項について、高校までの教育の現状も含め、その意識や現状を質問したもの。Q20～23では、五十音図・いろはほかの

日本語の基礎知識をためした。Q24～26では、今の短大生の言語能力の低下を象徴的に表している、漢字の読み書き能力を調べてみた。Q27・28は、社会的な問題となっている外来語の表記について、現状を調査してみたもの。Q29・30は、死語や流行語に関する調査。Q31～34は、コミュニケーション表現や待遇表現（敬語）などの意識と知識に関して調査してみたものである。以上のように、現代日本語の多様な分野について、多角的な項目を立てて調査を実施した。被調査者は、1年生の11名、2年生約10名としたが、回答を得られたのは合計約21名であった。

〔調査結果の分析〕以下に、調査結果とその分析の概要を報告する。詳細な分析・考察を試みたが、報告は、紙数の都合で、主として統計的な処理を中心とし、最小限にとどめさせるをえなかった。

〔今後の課題〕アンケート調査の結果については、今後さらに細かな分析を進めてゆきたい。調査の精度を高めるため、対面調査など必要であろう。また、定点観測ふうに、何年か後に同じ項目で調

査を試みることも、有意義なことと思っている。

調査結果を今後の教育に生かしてゆくのがわれわれに残された大きな課題であるが、①言語表現の基礎的能力の不足、のほかに②新聞・テレビなど様々なメディアで日常的に用いられている言葉の理解不足、自ら言葉を取り入れる能力・努力の不足、③他の世代（例えば父母との）や若干古い文献で用いられている言葉の理解不足、などの問題も指摘でき、そこから生じるのであらうコミュニケーションギャップなどの問題についても解決が求められているといえよう。

なお、末筆ながら、調査結果の集計には、情報学部の中條安芸子助教授と同学部の4年生金丸匠君の協力を得た。記して感謝申し上げます。

へ一般的なもの

Q1 話すこと、Q2 書くことを自分自身としてどのように受けとめているだろうか。

話すことが得意かを聞いたところ、得意であると答えた者は15%、不得意である28・7%。残りは、どちらともいえない51・8%、分からない0・5%と答えている。この現状は、自分の話すことを評価できないでいる。公の場で話すということの経験が少ないため、人から評価されたり、指摘されることがないのが一つの理由とされようか。

一方書くことに関しては、25%が得意、23・5%が不得意、他はどちらともいえない47%、分からない0・3%。全体で47・3%の者が評価できないと答えている。話すことに対して書くことは、小

論文指導等で評価される場合が多いためか、話すことよりもや意識的に受けとめているようである。

Q3 話す領域で特に気になることと挙げられたものは、内容100、言葉の使い方の正誤109、声の大きさ99、構成78、発音44、語彙35、方言19（以上実数）の順である。

Q4 書くことでは、構成142、内容131、誤字、脱字128、文字の美しさ70、語彙50、表記26（以上実数）の順になる。

Q5 最も文章を書いた時期についての設問である。高校46・6%、続いて小学校28・1%、中学校22・9%となる。高校を挙げたのは、受験のための小論文指導による結果であらう。

Q6 高校での具体的な指導内容として挙げられるもので圧倒的に多かったのは、文章構成40、ついで小論文の書き方37、文章のまとめ方13、起承転結・誤字、脱字12、文章の内容10（以上実数）等であり、きちんと指導されていることが、この結果からもうかがえる。

Q7 高校での具体的な指導で、身についた指導としては、文章の構成22、表現力11、論文の書き方10、誤字、脱字9、まとめ方8、自分の言葉で書くこと7、その他、字の美しさ5、わかりやすい文章の書き方5（以上実数）等で、手紙の書き方等も挙げられる。この現状は、Q6の結果と比べ、実際の指導と多少ずれが生じており、現在の学生の文章力からみて指導上の難しさがうかがえる。

Q 8 学校の授業以外に書いた文章を、他の人にみてもらったことがあるかという設問である。ある、40%、半数以上の60%がないとする。実際に書くことはあっても、それを他人に見てもらう機会は、意外に少ないようである。

Q 9 見てもらう機会があると答えた人は、どんな人に読まれ、どんな評価を受けているか。圧倒的に多かったのは、友人43、続いて高校の先生19、家族8、母6等（以上実数）が挙げられている。またコンクールに応募4、予備校の先生2等もあった。その際の評価としては、ほめてくれた13、面白いと言われた11や、文章のまとまり6、表現を訂正されたり、表現力の不足を指摘された2（以上実数）等が挙げられている。

Q 10 自分自身のことば使いについての設問である。正しく使えるとした者は、わずか8%で、普通31%、評価した者で全体の半数以上が、ことば使いの悪さを自覚している。悪いとした者の中には、ことば使いが粗雑で乱暴12、敬語の使い方が身につけていない24や、正しい日本語が使えない12、ボキャブラリーの少ないこと（以上実数）等を挙げている。

Q 11 次は、敬語の必要性についての設問である。たまに感じる67・3%、続いていつも感じている31%で、ほとんどの者が必要性を実感している。

Q 12 その敬語を場面に応じて使えるか。少し使えると答えた者は、6割に近い57・8%、次いで使える20・7%、あまり使えない20・3%とほぼ同率である。8割近い者が場面に応じて困らない程度の敬語を使い分けていることになる。この現状は、アルバイトの経験等が、役立っているともいえようか。

Q 13 このような現代語の敬語を中学や高校で勉強したことがあるのだろうか。ある37・8%、少しある50・2%、ない12%で90%に近い学生が勉強していることになる。

Q 14 あると答えた者は、どんな内容を学んだのだろうか。敬語の種類58、敬語の使い方23、日常の敬語26等が挙げられる。また、電話の対応の仕方4や目上の人への手紙の書き方3（以上実数）を学んだというものもあった。

Q 15 Q 15-19は、読むことに関する設問である。新聞を読むかという問に対して、毎日読む20・3%で極めて少なく、時々読む61・8%、全く読まないものも、18%もある。この現実からいえるものは、彼等の情報は、もっぱらテレビやラジオからが主で、新聞からは、得ようとする傾向がうかがわれる。

Q 16 特に読む記事では、スポーツ欄43、一面記事37、三面記事36、テレビ欄33、地方欄28、社説10、芸能欄9、天声人語7（以上実数）となっている。この現象は、新聞から社会について広く見聞を広めるといふ姿勢ではないことをもの語っている。

Q 17 きまつて読む雑誌として挙げられたのは、50誌ほどのぼった。その中では、HONDO 24、ジッパー10、CUTIE 9、ジャンプ7、RIZE 6、Vivi 5、JJ 4、横浜ウォーカー4（以上実数）である。全体的にみると好んで読まれるものは、ヤングファッション系の強いものがかなりの数を占める。

Q 18 また月にどれくらい本を読むかについては、一冊が最も多く35・5%、続いて2、3冊29・8%、4冊以上と答えた者は、13・3%、全く読まないと答えた者は、21・4%もあった。活字離れの指摘がされて久しいが、月に一冊以上読むと答えた学生は、80%はいる。

Q 19 特に好んで読む分野は、現代小説91、エッセイ32、推理小説31、ミステリー8、ホラー8、歴史小説5、ファンタジー6、詩5（以上実数）で、現代文化を学ぶ学生としてこの範囲では、大変さびしいものがある。

〈ことばの基礎知識〉

Q 20 五十音図を正確に書いてみる設問である。五十音図は、日本語の仮名文字と基本音韻の一覧表であり、完璧に会得していることが必要である。回答を得た結果、当然のことながら、すべての学生が「あいうえお」や「あかさたな」の順序を正確に把握していた。しかし、ワ行の処理は難しかったらしく、できない学生が多かった。正しく「わゐ(う)ゑを」と書けたのはわずか4・4%という結果

である。90%以上は「わをん……」「わ…を…ん」と書いていた。中には、「やみゆゑよ」とヤ行と混同している回答もあった。

Q 21 今度は「いろは」を最後まで書いてみる設問。完璧に書いた学生はわずか5・7%であった。「いろはにほへど」までの一行書いたのが25・7%、「ちりぬるを」までの二行書いていたものが42・5%で、ここまでで過半を占めている。1行も書けない者も4・0%あった。

Q 22 十二か月の異名は古典の世界に属するが、試みに設問としてみた。結果は、一部分しか書けない者がほとんどであった。むしろすべて書けた学生が6・5%いたことをよろこぶべきなのであろうか。

Q 23 干支占いでおなじみのはずであるが、漢字で書けるものはほとんどいなかった。すべて書けたのは、0・4%すなわち1名であった。ただし、自分の十二支は書けるようで、2年生は「申」、1年生は「酉」が比較的良好できていた。

〈漢字〉

Q 24 おなじみの漢字の書き取り。常用漢字が主で、漢字検定でいえば2級程度に相当する。全般的に正答率は低く、憂慮すべきことと思われる。「挨拶」や「謹んで」などは、日常生活における基本用語であると思われるが。

Q25 難しい語句、特殊な語句もあったが、書き取りに比べては、正答率が高いというべきであろうか。時事的な用語やマスコミによく登場することはとも入れてみたが、比較的よくできていたと思われる。

Q26 副詞・接続詞・文末表現は、原則として仮名書きがよいときれているが、その実態を調査したもの。1は「例えば」が88・3%、3は仮名書きが85・9%というかたよが見られたが、その他は、顕著な傾向は見られなかった。表記方法に統一な原則があるわけではなく、個々に書き分けているというのが現状である。

〈外来語〉

Q27 外来語のカタカナ表記についての設問である。これについては、統一的な定まった基準はないが、内閣告示第2号「外来語の表記」(平成三年六月二八日)では、「一般的に用いる仮名」(第1表)と原音・原つづりに「なるべく近く書き表そうとする場合に用いる仮名」(第2表)が区別されている。3から7では、第2表の原音に近い表記が「正しい」と考えられているか否かをみた。3の例では、「バ」派(51%)と「ヴァ」派(49%)がほぼ拮抗している。「数字はいずれも「正しい」とする者」。また、5、6では母音のiなどを拗音として表す表記が多く支持されている(5で59%、6で52%)。その他、1の「ジュミレーション」は誤記といえそうだが、多く支持されており意外だった(76%)。2の音引きのない「コンピュータ」および、7の「スチュワードス」は、それぞれメディアでの使用例が多いため支持されたものと思われる(2で58%、7で

86%)。

Q28 よく使われる外来語に対する理解度を見る設問である。1、2、3、5は若者もよく使う生活用語(A群とする)、8、9、13、14は日常的によく使われる用語(B群とする)、4、6、7、10は官庁などで用いられる用語(C群とする)、11、12は時事用語(D群とする)と、区別することができよう。A群では、2、3につき、「わかる」が多数となったが(2、3とも58%)「数字はいずれも「わかる」とした者」、1、5については「わかる」と「なんとなく」が拮抗しており、若者の間でよく使われる言葉についても、十分な理解がない例があることがうかがわれる。B群では、8を除けばおおむね「わかる」が多数を占めているといえる。C群では、若干専門的な使われ方がされている4、6、7で「わかる」が圧倒的に少ない点が目立つ(4で2%、6で3%、7で2%)。ちなみに、この三つの言葉をすべて見たり聞いたりしたことが「ない」と答えたのは82名(回答250中)だった。D群は生活に密着した言葉ともいえ、圧倒的に「わかる」が多かった(11で89%、12で92%)。

〈ことばの変化〉

Q29 いわゆる「死語」について、問う設問である。1、7と13は戦前のもので、13を除く8以下は戦後のものとおおむね分類できる。このうち、2、6、7は、いずれも日常生活では使われなくなっていると思われる言葉だが、「わかる」が多い点が目に付く(2で51%、6で65%、7で40%)。「数字はいずれも「わかる」とした者」。一方で、時代小説や近代の小説などで普通に用いられると思われる

1、3、4、5で「わかる」は少なかつた（1で4%、3で14%、4で25%、5で24%）。13を除く8以下は、戦後の言葉だが、16（81%）を除き「わかる」が圧倒的に少ないのは意外だった。16は「アベック優勝」などの言葉として使われており、現役の言葉といえるかもしれない。13を「わかる」とした者が多いが（48%）、コミックスや連続ドラマのタイトルとして使われる例もあり、メディアの影響が推測される。Q29に挙げた言葉は、必ずしも「高尚な」文化を表現する言葉ではないかもしれないが、特に8の「斜陽族」（5%）などの戦後の言葉の多くが現代の学生に継承されていないという事実は、文化の継承にも関わる問題なのではないだろうか。

Q30 戦後の流行語を並べてその理解の有無を問う設問である。新しいものから順に並べてある。1から5および7などは現役の言葉とも言え、「わかる」の比率が高かつた（1で57%、2で51%、3で81%、4で51%、5で93%、7で92%）。「数字はいずれも「わかる」とした者」。これに対し、6（8%）、14（21%）、15（29%）などに「わかる」が少なかつた。これらの言葉はそれこそ一世を風靡した言葉であり、その理解度が低いことから、Q29の結果と相まって若い世代への語彙継承の難しさを読みとることができる。一方で8、10、12、13で「わかる」が極めて多いのは、意外だった（8で62%、10で59%、12で63%、13で76%）。

へコミュニケーション

Q32 日常の会話や手紙を書くような人とのコミュニケーションをもつ場合、その対人関係によって影響を受ける表現である敬語につ

いての設問である。

見る、聞く、食べる、行く、言うの5つの動詞を尊敬語と謙讓語に書き改める設問である。日常的に良く使用される、見る（正解数120）、食べる（131）、言う（195）については、正解率が高い。しかし聞く76、行く2の二語では、正確に答えられたものは、極めて少ない。

Q33 普段よく耳にする間違いやふさわしくない言い方を、どう受け止めているかの設問である。間違いのまま踏襲されているような言い方には、疑問をもっていない現状がうかがえる。敬語を使うべきであるという固定観念を持つ、先生に対する言い方については、彼等は、実に敏感であることが分かる。自分自身の置かれている位置を基本として身に付けた敬語法であるから、現実を経験していない集団の敬語の体系を正確に身に付けることは、難しいようである。

《外来語》

Q27 次の外来語のうちどの表記が正しいと思いますか。

1. シミュレーション シュミレーション 2. コンピュータ コンピューター 3. バイオレンス
ヴァイオレンス 4. ベトナム ヴェトナム 5. ウイスキー ウィスキー ウキスキー 6. グラム島
グラム島 ガム島 7. ステewardes ステアアデス スチュワードes スチュアアデス

Q28 次にあげることばを見たり聞いたりしたことはありますか。また、その意味はわかりますか。

1. アウトレット 2. カジュアル 3. インディーズ 4. シーリング 5. アミューズメント
6. ターミナルケア 7. ノーマライゼーション 8. ソース（「源」の意味で） 9. シビア
10. シンクタンク 11. リストラ 12. セクハラ 13. リスク 14. シリアス

選択肢〔Q28、29、30は同じ〕：ある（わかる なんとなくわかる わからない） ない

《ことばの変化》

Q29 次にあげることばを見たり聞いたりしたことはありますか。また、その意味はわかりますか。

1. 木賃宿 2. 蚊帳 3. 卓袱台 4. 細君 5. 腰巾着 6. お勝手 7. 衣紋掛け 8. 斜陽族
9. 総天然色 10. カミナリ族 11. マッチポンプ 12. パラック 13. ハイカラ 14. アングラ
15. ランデブー 16. アベック 17. アブレゲール

Q30 次にあげることばを見たり聞いたりしたことはありますか。また、その意味はわかりますか。

1. ブッチホン 2. メークドラマ 3. サポーター 4. オヤジギャル 5. フリーター 6. マル金・マル
ビ 7. ぶりっ子 8. 窓際族 9. オヨヨ 10. 恥ずかしながら 11. オー、モーレツ 12. びっくりし
たなー、もう 13. シュー 14. 所得倍増 15. よろめき 16. むちゃくちゃでござりまするがな 17.
老兵は死なず 18. てんやわんや

《コミュニケーション》

Q31 次の動詞を、「れる・られる」を用いなくて、尊敬語と謙譲語に書き改めなさい。

1. 見る 2. 聞く 3. 食べる 4. 行く 5. 言う

Q32 次にあげたことばは、間違った言い方やふさわしくない言い方として、気になりますか。

1. 電車がまいります 2. 犬にご飯をあげる 3. お持ち帰りできます 4. ご安心してお使ください
5. 先生からもらいました 6. 先生、お宅から電話が入っております

Q33 次のことばづかいのうち、どれが正しいと思いますか。

1. 目上のAさんの発言を受けて、目下のBさんがそれに応えることば。

Aさんがそう申すのもごもっともです。 Aさんがそう申されるのもごもっともです。

Aさんがそうおっしゃるのもごもっともです。 Aさんがそういうのもっともです。

2. AさんがBさん宅に電話したところ、Bさんの夫人が出た。その時、夫人にBさんの在宅を確か
めることばづかい。

Bさんはお帰りなさっていらっしゃいますか。 Bさんは帰って参りましたでしょうか。

Bさんはお帰りになりましたか。 Bさんは帰ってるかな。

3. 会社の受付をしていて、来客に待ってもらう時のいいかた。

恐れ入りますが、少し待ってください。 すみませんが、少しお待ちください。

申し訳ありませんが、しばらく待ってください。 恐れ入りますが、しばらくお待ちいた
だけますか。

Q34 次のことばをどういう相手のときに使いますか（複数回答可）。

1. オハヨー・オハヨーゴザイマス 2. ガンバッテネ・ガンバッテクダサイ
3. テューカ 4. エー、ウソー 5. チョーヤバイ

選択肢：友人 親 先生 面接官（会社訪問に行ったと仮定） だれにでも 使わない

《一般的な質問》

- Q 1 あなたは、話すことが得意ですか。
選択肢〔Q 1、2は同じ〕：得意である 不得意である どちらでもない 分からない
- Q 2 あなたは、書くことが得意ですか。
- Q 3 話すことで、特に気になることはどのようなことですか（複数回答可）。
選択肢：内容 構成 語彙 方言 ことばの使い方の正誤 声の大きさ 発音 その他
- Q 4 書くことで、特に気になることはどのようなことですか。
選択肢：内容 構成 語彙 表記 誤字脱字 文字の美しさ その他
- Q 5 あなたは、高校までの学生生活の中で、最もたくさん文章を書いていたのはいつですか。
- Q 6 高校では、書くことについてどのような指導を受けてきましたか。具体的に書いてください。
- Q 7 その中で、一番身についたと思う指導はどんなことですか。
- Q 8 あなたは、授業以外で自分の書いた文章を、他の人に見てもらったことがありますか。
- Q 9 それは、どんな人で、どんな評価を得ましたか。
- Q 10 あなたは自分自身のことばづかいについて、どう思っていますか。
- Q 11 敬語は英語などにはない日本語の特徴ですが、現代においても敬語の必要性を感じますか。
- Q 12 あなたは、場面に応じて敬語をきちんと使っているほうだと思いますか。
- Q 13 あなたは、中学や高校の授業で、現代語の敬語について学習したことはありますか。
- Q 14 上の質問で「ある」と答えた人は、どのような内容でしたか。
- Q 15 あなたは、ふだん新聞を読みますか。
- Q 16 特にどの記事を読みますか。
- Q 17 きまって読む雑誌はありますか。ある人は雑誌名を書いてください。
- Q 18 あなたは、月に何冊くらい本を読みますか。
選択肢：0冊 1冊 2・3冊 4冊以上
- Q 19 どんな分野の本を読みますか。具体的に書いてください。

《ことばの基礎知識》

- Q 20 五十音図を正確に書きなさい（縦書き、右から）。
- Q 21 「いろは」を最後まで書きなさい（縦書き、右から）。
- Q 22 十二月の異名を書きなさい（仮名書きも可）。
- Q 23 十二支を漢字で書きなさい。

《漢字》

- Q 24 次のカタカナを漢字に改めなさい。
イガイなでき事 核爆弾のイリョク オンコウな人柄 保険のカンユウ員 タイグウが悪い トウテ
イ無理な話 交渉がナンコウする ヘンケンを持つ 新聞のホウドウ クロウトの芸 ルテンの人生
初対面のアイサツ 秘密をサグル ツツシンデ受ける イキドオリを感じる イサギヨイ決断 有珠
山のファンカ ユウカイ事件 カイゴホケン ケイサツのフショウジ カバカボウラク ニンシン四か
月 ケイタイデンワ ナツメソウセキ イシハラシントロウ
- Q 25 次の漢字の読みを書きなさい。
時雨 遊説 更迭 袈裟 許嫁 懲戒 顰蹙 恐喝 哀悼 凡例 海豚 蒟蒻 秋桜 秋刀魚 朱鷺
倫敦 武双山 邪馬台国 輪廻転生 麦酒 控訴審 為替市場 派閥政治 詐欺 昏睡状態
- Q 26 次の表記のうち、あなたはどれをよく使いますか。
1. たどえば 例えは 喩えは 譬えは 2. すなわち 即ち 則ち 3. ただし 但し
4. または 又は 5. ~のように ~の様に 6. することができます する事ができる
することが出来る する事が出来 7. してください して下さい